

コロサイの信徒への手紙

～堀川寛による広島弁訳～

(広島弁訳の意味) (訳者の解説・蛇足)

第1章

神様のご意志によってキリスト・イエス様の使徒としてもろうたパウロと(主にある兄弟)テモテから、コロサイにいる聖なるもんら(者たち)、キリスト様に包まれとる忠実な兄弟らへ。わしらの父上である神様からの恩恵(めぐみ)と平安が、あんたらにあるように。

わしらは、いっつもあんたらのために祈り、わしらの主イエス・キリスト様の父上である神様に感謝しよる。あんたらがキリスト・イエス様への信仰と、すべての聖徒らに対してもっとる愛について聞いたけえじゃ。あんたらは、福音という真理の言葉を通して与えられた希望を天に蓄えとる。あんたらに伝えられたこの福音は、世界中至る所に伝えられ、神様の恵みを聞いて真に悟ったもんらが実を結んで成長しよる。あんたらは、この福音を、わしらと共に(主に)仕えとる仲間、愛するエパfrasから学んだ。あんには(彼は)、あんたらのためにキリスト様に忠実に仕え、また、聖霊によるあんたらの愛を(わしに)知らせてくれた。

ほいじゃけえ、わしらは、あんたらからの知らせを聞いてから、いついき(絶えず)あんたらのために祈り、願ひよる。(パウロの祈り)「どうか、聖霊による知恵と理解力によって、神様のご意志をはっきり悟り、あらゆる点で主に喜ばれるよう、主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、益々神様を深く知ることができるように。ほいで、神様の栄光の力によって、またあらゆる権能によって強められ、どんな状況下でも堪え忍ぶことができるように。」

光の子である聖徒たちの相続に、あんたらを預からせてくれんさった父なる神様に、喜び溢れて感謝しんさい。父は、わしらを闇の力から救い出し、その愛する御子の支配下に移してくれんさった。わしらは、この御子によって、贖い、つまり罪の赦しをまろうとる。御子は、目に見えん神様の(見える)お姿であり、すべてのもんが創造される

前からおられた方じゃ。天にあるもんも地にあるもんも、見えるもんも見えんもんも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子によって創造された。つまり、万物は御子によって、御子のために創造されたんじゃ。御子はすべてのもんより先におられ、すべてもんは御子によって存在させられとる。ほいで、御子はその体である教会の頭(かしら)じゃ。御子は第一号、死者の中から最初によみがえられた方じゃ。こがいにして、(御子は)すべてのことにおける第一のお方となられたんじゃ。神様は、ご意志のままに、御子の内に満ちあふれる豊かさを宿らせ、その十字架の血により平和をつくり、地にあるもんも、天にあるもんも、万物をただ御子によって、ご自分と和解させられたんじゃ。

あんたらは、かつては神様から離れ、悪しき行いをし、心の中で神様に敵対しとった。ほいじゃが今や、神様は御子の肉体を用いて、その死によってあんたらと和解し、ご自分の前に、聖なる、傷のない、とがめるところのないもんとしれくれんさった。ほいじゃけえ、フラフラせんと、しっかり信仰にとどまって、あんたらが聞いた福音の希望から離れちゃあいけん。この福音は、世界中至る所で人々に宣べ伝えられ、わしはその福音に仕えるもんとされたんじゃ。

わしやあ、あんたらのために苦しむんを喜んでるし、キリスト様の体である教会のために、キリスト様の苦しみにあずからしてもろうとる。神様は、御言葉をあんたらに余すところなく実現させるために、わしを教会に仕えるもんとしてくれんさった。世のはじめから代々にわたって隠されとった奥義が、今、神様の聖徒たちに明らかにされたんじゃ。この奥義が(特に)異邦人にとってどんだけ栄光に輝いたもんであるか、神様はあんたらに知らせようとした。その奥義とは、あんたらの内におられる栄光の希望であるキリスト様のことじゃ。このキリスト様を、わしらは宣べ伝え、すべてのもんがキリスト様に包まれて完全とされるように、知恵の限りを尽くして励まし、教え続けとる。こんために、わしは労苦し、わしの内に力強う働いてくれんさるキリスト様の力によって奮闘しとる。

第2章

わしが、あんたらとラオディキアにおるもんらのために、ほいで、まだ直接顔を合わせたことのないすべてのもんらのために、どんだけガンバって闘いよるか、分かってくれんさい。わしの願いはのう、あんたらが励まされ、愛の絆で結ばれ、理解力がしっかり備わって、神様の奥義であるキリスト様についてきちんと知ることができるようになることじゃ。知恵と知識の宝は、キリスト様のうちにみな隠されとる。わしがこう言うのはのう、あんたらが巧みな言葉にだまされんようにするためじゃ。わしは物理的には離れとるが、霊的にはあんたらといっしょにおって、あんたらがキリスト様にをきちんとまたしっかり信じとるのを見て喜んどる。

あんたらは、主キリスト・イエス様を受け入れたんじゃけえ、キリスト様の内を歩みんさい。キリスト様に根ざして建て上げられ、信仰を教えられたとおりしっかり守って、感謝に溢れるもんになりんさい。人間が考え出した空っぽの哲学に騙されちゃあいけんで！ありゃあのう、この世の幼稚な教えで、キリスト様に従うもんじゃあない。(よう聞いと きんさい。)キリスト様には、神としての満ちあふれる豊かさが、見える形となって宿とる。あんたらは、万物の支配と権威の長であるキリスト様にあって豊かにされとるんじゃ。あんたらはキリスト様にあって、人の手によらん割礼、つまりキリスト様による割礼を受けて、肉の体を脱ぎ捨て、洗礼によって、キリスト様と共に葬られ、また、キリスト様を死者の中からよみがえらせた神様の力を信じて、キリスト様と共によみがえらされたんじゃ。あんたらは、肉の割礼もなく(ユダヤ人でなく)、罪過の中に死んどったんじゃが、神様はキリスト様と共に生かしてくれんさった。神様は、わしらの一切の罪を赦された。わしらにとって絶対的に不利であった(罪の)債務証書を、十字架に釘付けにして無効にされたんじゃ。ほいで、すべての支配と権威の武装を解除し、キリスト様の勝利の行列に従えて、さらしもんにしんさった。

ほいじゃけえ、あんたらは、食べもんや飲みもんのこと、祭りや新月の祝い、安息日のことなんかにこだわり、非難されんようにしんさい。これらのことは、きたるべきもんの影にすぎん。実体は

キリスト様にある。あんたらは、見せかけの謙遜と天使礼拝におぼれとる連中から文句をつけられんようにしんさい。あんには、幻を見たこと誇り、肉の思いによっていたずらに思い上がっただけで、頭(かしら)であるキリスト様にしっかり結びついとらん。この頭の働きがあるけえ、体全体は関節と筋肉によって組織され、結び合わされ、神様によって育てられて成長していくんじゃ。

あんたらは、キリスト様と共に死んで、この世を支配しとる霊との関わりを断ち切ったのに、なんでまだこの世に属しとるもののように、「すぎるな。味わうな。触れるな」(グノーシス主義の決まり)などという戒律に縛られとるんな。こがいな(このよ うな)もんは、人間の作り出した、ふけば飛ぶよ うな戒律や教えに過ぎん。あんにはのやっつとることは、自分勝手な礼拝、見せかけの謙遜、無意味な苦行に過ぎず、賢そうに見えても、実は何のききめもなく、結局は肉の欲望を満足させとるに過ぎん。

第3章

そういうことじゃけえ、あんたらは、キリスト様と共によみがえらされたんじゃけえ、上(天)にあるもんを求めんさい。そこには、キリスト様が神様の右の座に着いておられる。上にあるもんに思いを はせ、地上のもん心に心を奪われんように。あんたらは死んだんじゃ。あんたらは命はキリスト様と一緒に神様の内に保たれとる。あんたらは命であるキリスト様が顕現される時、あんたらも、キリスト様と共に栄光に包まれる。

ほいじゃけえ、地上的なもん、つまり、不品行、汚れ、情欲、および食欲なんかを捨ててしまいいんさい。食欲は(物に対する)偶像礼拝じゃ。こがいなことをするけえ、神様の怒りが下るんじゃ。あんたらも、以前はそういう思いに縛られてあゆんどった。今は、それらの全てを捨てると同時に、怒り、憤り、悪意、皮肉など、口から出る汚いもんをみな捨て去りんさい。お互いに嘘をついちゃあいけん。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、まことの知識に到達するんじゃ。そこには、はあ(もはや)、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた

もんと受けとらんもん、未開人、スキタイ人(野蛮な民族)、奴隷、自由人なんかの区別はない。キリスト様がすべてであり、すべてのもんのうちにおられるけえじゃ。

あんたらは神様に選ばれ、聖なるもんとされ、大切にされとらんじゃけえ、憐れみの心、慈愛、謙遜、優しさ、寛容を身に着けんさい。お互いに忍耐し合い、文句を言いたいことがあっても、赦し合いんさい。主があんたらを赦してくれんさったように、あんたらもそうしんさい。ほいで、これらすべての上に、愛を身に着けんさい。愛は、あらゆることを完成させるきずなじゃ。また、キリスト様の平和があんたらの心をいつも支配するようにしんさい。そのためにあんたらは招かれて、ひとつの体とされたんじゃ。感謝が絶えんように!キリスト様の言葉をあんたらの内に豊かに宿らせんさい。知恵の限りを尽くして互いに教え、互いに戒め、詩編と賛美歌とワークショップソングを用いて、感謝を込めて心から神様をほめたたえんさい。ほいで、話をするんにも、行うんにも、すべてを主イエス様の名によってなし、イエス様によって、父なる神様に感謝しんさい。

妻たちよ、主にあるもんとして、夫に仕えんさい。夫たちよ、妻を大切にしんさい。つろう(辛く)当たっちゃあいけん。子どもたちよ、すべてのことについて両親に従いんさい。それは主が喜ばれることじゃ。親たちよ、子どもをいらだたせちゃあいけん。いじけさせんためじゃ。しもべたちよ。どんなことでも主人に従いんさい。うわべだけじゃのうて、主をおそれるつもりで、真心から従いんさい。主人たちよ、しもべを正しく、公平に扱いんさい。あんたらの天の主人がなさってのように。(本来 4:1) (すべての人よ、)何をするにも、人に対してではなく、主に対する気持ちで、心から行いんさい。あんたらは、あんたらがお仕えしとる主から、いづれ報いを受けることを知つとる。不義を行うもんは、不義の報いをうける。主はえこひいきをされん。

第4章

目を覚まし、感謝を込めて、ひたすら祈り続けんさい。わしらのために祈ってくれんさい。神様が

門を開いて、わしらがキリスト教の奥義を伝えることができるように。—そのせいで今は牢につながれとる—。わしが、語るべきことを明確に語るることができるように。時間を無駄にせず、外部の人たちに対して、知恵のある対応をしんさい。いつでも滋味溢れる言葉を選びんさい。そうすりゃあ時宜にかなった答えができるじゃろう。